令和７年３月 31 日

神奈川県教育委員会教育長 殿

県立茅ケ崎西浜高等学校長

令和6年度 学校評価報告書(実施結果)

	視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価	総合評価(3月 31 日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等	(3月3日実施)	成果と課題	改善方策等
1	教育課程 学習指導	① ・生徒が主体的に学ぶ意欲を養い、自ら課題を発見し解決するための思考力、判断力、表現力を育む。 ② ・学校行事や生徒会活動を充実させ、生徒の主体性の伸長を図る。	① ・「プログラミング的思考を土台とした生徒の可能性を広げる授業」を目標とし、組織的な授業改善を行う。 ② ・学校行事や生徒会活動を生徒主体で取り組ませることにより、成功体験を積ませ、成長させる。多くの場面で、生徒に場を設け発信する機会を作る。	① ・組織的な授業改善を深化させ、生徒の学ぶ意欲を高める。 ・10 の技法を意識した授業実践により、生徒の思考力、判断力、表現力を育む学習指導を行う。 ② ・生徒会行事等を生徒主体で企画、立案、運営させることにより、生徒の自主性・主体性を育むとともに、コミュニケーション力を培う。	① ・生徒による授業評価で「考えをまとめる授業」「課題解決方法を考える」項目で評価 3・4 合わせて 90%以上となったか。 ・全職員が、授業で「10 の技法」のロゴをプリントに示したり、黒板に提示するなど、生徒の思考を促すことができたか。 ② ・様々な場面で生徒に活動する場を設けるとともに、生徒主体で行事や生徒会活動を行い、成功体験を積み人として成長することができたか。	① ・質問項目③において、3・4 合わせた学年ごとの数は、1 学年 85.9%、2 学年 88.9%、3 学年 91.8%であり、3 学年のみ目標達成できた。 ・質問項目⑥において、3・4 合わせた学年ごとの数値は、1 学年 84.6%、2 学年 86.5%、3 学年 90.3%であり、3 学年のみ目標達成できた。 ・授業内で「10 の技法」のマグネットを活用したり、プリントやスライドへ表示し、生徒の思考を促すことができるようになってきたが、毎時間、全職員が実施するまでには至っていない。 ② ・体育大会・文化祭等、様々な学校行事の中で生徒主体となった活躍が見られる。成功体験を積み成長した姿を感じることができる。	① ・授業評価の目標の達成を含め、一層の授業改善を進める。 ・大型電子黒板の有効な活用方法の共有を進め授業改善に生かす。 ・「10 の技法」マグネットの保管場所を統一し、活用を促す。 ② ・今後も生徒主体で活躍できる場を多く設け、成功体験を積み重ねていきたい。	① ・学校での学びは嫌なことの克服、普遍性がある先人の教えを伝えることもあると考える。授業評価の結果だけを重視するには及ばない。 ② ・文化祭では生徒が主体的に取組んでいることからこれまでの過程も想像でき、生徒一人一人帰属感をもって活動していることに成果を感じた。	① ・生徒の可能性を広げる授業をテーマに授業改善を行ったが、テーマが広く、研修成果をはっきりと出すことができなかった。 ・年度途中導入の大型電子黒板についても有効活用された。新年度も更に有効活用できるように研修等を開催していきたい。 ・10 の技法を意識した授業実践の成果を見とる方法が不明確であった。 ② ・球技大会はこれからであるが、どの行事においても参加率、満足度は 90%を越えていると思われ、成果を感じることが出来る。次年度もより生徒中心で行事を回し、運営側も参加側も満足いく結果をだせるよう頑張りたい。	① ・来年度の授業改善のテーマを生徒の可能性を広げる授業～自己肯定感を形成・向上～と副題を付け目標をはっきりさせる。 ・10 の技法の習得についてアンケートを作成し、定期的に集約していく。 ② ・昨年度と同じになるが、今後も生徒主体となる運営をサポートしていく。アンケートをとることで参加率、満足度を数値化し、よりよい大会を模索する。
2	生徒指導 ・ 支援	① ・基本的生活習慣・社会的生活習慣を定着させ、平和と人権を尊重する公民の育成をめざす。 ② ・部活動を活性化させ、責任感や連帯感を育成する。	① ・頭髪, 服装指導を徹底して規範意識を高めていく。 ・生徒の現状に合った指導の徹底と交通安全の意識を高め、事故発生等を減らすように努力する。 ・困難を抱える生徒の把握に努め、適切な支援を確実に行う。 ② ・部活動オリエンテーション・部活動体験を充実させるとともに、中学生への発信を重視し本校で部活動をやりたい生徒を一人でも多く獲得する。	① ・生徒との信頼関係に基づいて、頭髪・服装指導や遅刻指導を粘り強く実施する。 ・交通事故の防止と交通マナーの指導を徹底する。スケアードストレイト交通安全教室などを通じて交通安全の意識を徹底する。 ・かながわサポートドックも活用し、SC・SSWと連携し、教育相談体制を拡充させる。 ② ・部活動の加入率を上げ、部活動等を通して自己有用感を高めるとともに、主体的に学校生活を送る態度を養う。	① ・頭髪, 服装指導の件数が例年に比べて減少したか。 ・交通事故の発生件数や、苦情の件数は減少したか。 ・校内において生徒が安心安全な学校生活を送ることができているか。 ・生徒の情報の把握と共有を行い、困難を抱える生徒に適切な支援を行うことができたか。 ② ・部活動入部率が、新入生で 45%以上、学校全体で 40%以上であったか。	① ・例年に比べて頭髪服装指導件数は減少してきているが、頭髪指導にしては困難を極めているケースも出てきている。 ・交通安全に関する苦情は例年と同等数である。交通指導やスケアードストレイトまた交通安全教室を通して今後も交通安全を指導していく。 ・かながわ子どもサポートドックの第 1 回目を 5 月に行った。アンケート結果の共有と担任による面談を行い、生徒の困りごとを把握する機会となったが、SC・SSW の面談を希望する生徒はいなかった。そのため、第 2 回目ではスクリーニングをより綿密に行い、プッシュ型面談を実施する予定である。 ② ・新入生の部活動加入率は 48%と、加入率を上げるための工夫 が成果として現れた。今後どのように維持(継続率)させていくかが課題である。11 月の部員調査において 1 年生の加入率は 47%とほぼ現状維持であった。	① ・今一度規範意識の向上と普段からの身だしなみを徹底して指導を行っていく。 ・日々の交通安全指導や登下校時の交通安全の注意喚起を徹底していく。 ・アンケートの結果を踏まえて、プッシュ型面談つなげていく必要がある。 ② ・部活動の参加や活性化に向けて現状を維持するとともに、新入生も含め次年度に繋げたい。	① ・指導に従えないなら高校へ来るなという意志で、先生方には自信を持って指導してほしい。下のレベルに合わせるのではなく、中間層より上へ手厚くするべきだ。 ・社会に出て苦労することがないよう早いうちの是正が必要だ。遅刻等は社会に出てから困ることになる。 ・遠距離の自転車通学者へは公共交通機関の利用を促したらどうか。 ② ・部活動加入状況の向上は、原因を分析し、今後につなげる必要がある。	① ・頭髪服装指導における件数は減少してきていると思われる。 ・ここ数年、頭髪に関しては指導しきれない困難なケースも増えてきた。 ・登下校中の交通事故は減少してきている。 ・例年に比べ SNS に関係する指導案件が増加した。 ・かながわ子どもサポートドックなどの活用により教育相談を活用してのケースが目立った。 ・SC, SSW 共に活用件数が増えてきた。 ② ・中学生向けの部活動体験会を 3 回行うことが出来、参加者は合計 130 名を越えた。申込者の半数以上が本校を受検、合格した。加入率の向上に繋がるとよい。この部に入りたいと思い、本校を志望する中学生が増えるような魅力的な部活動を増やし、宣伝活動に力を入れる必要がある。	① ・大多数の生徒は頭髪指 導に理解を示してきていて従ってきているので件数は減ってきている。また、染色か地毛か区別のつかないケースも出てきて、保護者からの指摘もあった。 ・SNS の利用法を一段と指導していかなければならない。 ・SC, SSW を活用するだけでなく、生徒及び保護者などに十二分にフィードバックしなければならない。 ② ・部活動体験において、当日参加者が多数おり、研究広報 G と協力し、開催の周知方法に工夫が必要である。
3	進路指導 ・ 支援	○ ・キャリア教育実践プログラムを充実させ、生徒のめざす進路希望実現を支援する。	① ・進路実現に向けて、1・2 年生での進路探究を進め、職業理解・自己理解を深める。 ② ・生徒や保護者に向けた各種情報発信を工夫する。 ③ ・基礎学力を高め、生徒一人一人に合った進路支援をし、希望する進路の選択肢を広げる。	① ・キャリア計画「西浜高校の 36 ヶ月」を基に、生徒が自らの進路について考え、実現できるよう適切に支援する。 ② ・Classroom やマチコミメールなどを活用し、進路関連情報を生徒や保護者に提供する。 ③ ・スタディサプリや外部試験等も活用し、基礎学力の拡充を図る。模試や模擬面接などを通して、具体的な進路支援を行う。	① ・キャリア計画に沿って進路活動が実施できたか。 ・インターンシップなどの活動へ参加が増えたか。 ② ・年間を通じて、その時期に応じた進路情報を生徒や保護者に適切に提供できたか。 ③ ・外部試験の結果を分析し、学力向上に反映することができたか。具体的な進路支援が効果的にできたか。	① ・キャリア計画に沿って進路活動を実施している。 ・地区インターンシップの参加は前年比 14 名減の 20 名、看護体験は前年比 3 名減の 1 名、高大連携大学見学は前年比 36 名増の 49 名の参加があった。 ② ・Classroom を利用して奨学金情報や各種進路情報を提供している。 ③ ・到達度テストを 2 回実施したが、大きな効果を見取るには至らなかった。実力テストについて、3 年生は前倒しにし、1・2 年生は新たに 2 学期初めに実施した。	① ・インターンシップの参加を促したい。大学見学は企画を一層精査したい。 ③ ・到達度テストの時期と方法を見直すとともに、基礎学力定着を目指したい。 ・実力テストの時期や内容は来年度も継続したい。	③ ・同じ到達度テストを 2 回実施できる学校が増えているが、オンライン解答の効果もあると思う。 ・外部のシステムの活用を通じ、学力を伸ばすことができるとよい。	① ・概ねキャリア計画に沿って進路活動を実施することができた。 ・実際の業務を体験することにより、参加した生徒は職業への理解を深めることができた。 ② ・保護者にはマチコミメールで奨学金情報や各種進路情報を提供したが、電話での問い合わせも多数あった。Classroom で配信した講座等に実際に申し込みがあった。 ③ ・到達度テストの難易度を生徒の状況に合わせたことで、生徒の意欲をあげることができた。 ・実力テストの内容や時期を変更した結果、生徒が前向きに取り組む様子が見られた。生徒と担任へ提供する情報を増やすことができたが、より充実させる必要がある。	① ・インターンシップについて長期的な視点での効果を各学年の進路担当や担任から生徒に説明し、生徒の参加を促す。 ② ・マチコミメール配信の時期や頻度を見直し、より丁寧な情報発信に努める。 ③ ・次年度も到達度テストのオンライン解答を実施し、学力定着のために効果的な時期及び種別、回数を引き続き検討する。 ・生徒と担任が進路情報を容易に確認できるよう、オンラインシステムを適切に活用する。

	視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価	総合評価(3月 31 日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等	(3月3日実施)	成果と課題	改善方策等
4	地域等との協働	① ・保護者、地域と連携し、信頼される学校づくりを推進する。 ② ・学校からの情報発信に努める。	① ・学校運営協議会やPTA、地域と協働し、信頼され生徒が活躍できる学校づくりをめざす。 ② ・学校説明会、中学校への学校紹介資料の配付、HP 等を通して本校の特色を幅広く紹介する。	① ・学校運営協議会をはじめ、地域自治会・上級学校・企業、保護者等と連携し、生徒の活動の場を設ける。 ・教育活動への保護者の積極的な支援や参加を促す。 ② ・学校説明会や学校紹介資料、学校HP の充実を図り、本校の魅力・特色を幅広く適時に発信する。	① ・学校運営協議会によって課題や目的を共有し、改善できたか。 ・PTA 活動への参加者が、昨年度よりも増えたか。 ・地域の方々が、防災研修等へ参加できたか。 ・地域の要請に応じて積極的に参加できたか。 ② ・学校説明会等で学校の魅力特色を適切に伝えられたか。 ・HP は常に最新データに更新されたか。	① ・課題や目的を共有し、改善への取組みを進めた。 ・PTA 非加入者も見られ、PTA 活動への参加は減少している。ボランティア参加も促したが参加は限定的である。 ・文化祭起震車体験は、多くの一般来校者が体験した。また防災研修に地域の学校より2名の参加者があった。 ・地域のお祭り等に部活動生徒がボランティアとして参加した。 ② ・学校説明会等で学校の魅力特色を適切に伝えられるよう、スライド内容を常に見直した。4回の説明会参加者合計は947組であった。なお、令和7年度の共通選抜の志願者は410名(募集359)であった。 ・HP は常に最新データに更新されるよう努めているが、日頃の業務に追われ難しかった。	① ・今後も課題や目的を共有し、改善方法について検討していく。 ・PTA 活動への参加方法について PTA と協議し工夫を加える。 ・地域の行事には引続き要請に応じて積極的に参加していく。 ② ・学校説明会等の広報活動に生徒の発信を一層取り入れたい。 ・HP は各グループや学年、部活動単位で更新していけるよう声掛けを続ける。	① ・地域のお祭りでは生徒の協力もありとても楽しそうであった。引き続きの参加拡大を願いたい。 ② ・学校説明会は高校の様子を知る上で中学1、2年生も積極的に参加できるとよい。 ・学校説明会は生徒の言葉で説明がなされている。部活動の発表等もあるとよい。	① ・課題や目的を共有し、行事や部活動の活性化、学校説明会による特徴紹介など一定の成果を収めた。 ・PTA 活動について、参加人数は減少傾向であるが、役員を中心に活発に活動できた。 ・2年間の防災支援事業の一環で開催し、一定の成果を収めた。 ・地域との連携において、一定の成果を収めた。 ② ・広報活動では、生徒が「情報Ⅰ」で作成した作品をポスター、チラシへ登用、生徒会役員生徒が主体となり学校紹介動画を作成した。学校説明会では、年間行事、生徒会行事についての説明、及び、司会を昨年に引き続き生徒が行った。 ・説明会は、部活動生徒に準備や当日の誘導、片付けなど行ってもらっており、司会から紹介も行っている。 ・部活動の PR を中学生へ見えるように生徒会と連携する。	① ・より魅力が伝わるよう協力していく。 ・運営委員会のオンライン化や回数削減など、参加する。 ・今後も継続の方向で検討していく。 ・今後も要請に応じて継続していく。 ② ・学校説明会等の中学1、2年生も参加しやすいように発信していく。 ・広報活動を部活動など生徒からの発信を一層取り入れたい。
5	学校管理 学校運営	① ・安全で安心な教育環境を確立する。 ② ・教職員の働き方改革に取組み、ワークライフバランスを推進する。 ③ ・教職員全体で事故防止に取組む。 ④ ・学校図書館を学校生活の様々な場面で活用する。	① ・職員・生徒・保護者等が一体となってより良い教育環境づくりを目指す。 ② ・業務の精選と分担を見直し、組織的な業務改善を行う。 ③ ・不祥事防止資料を効果的に活用し、有効な研修を実施する。 ④ ・学校生活の様々な場面を想定して、生徒や先生がより利用しやすい図書館運営を目指す。 ・図書館への信頼を得るべく、日々の業務の積み重ねを丁寧に行う。	① ・安全安心な教育環境の整備を徹底する。 ・防災意識を高め、一人ひとりが自分事して捉えられるような学校防災の取組を実践する。 ② ・会議や業務の精選を図り、年次休暇等の取得や勤務時間外勤務の短縮を徹底する。 ・業務アシスタント等の人材を有効に活用する。 ③ ・事故防止会議だけでなく、教職員としての自覚、責任、誇りを持てるような研修を通し当事者意識を高め、日ごろから風通しの良い職場環境づくりを推進する。 ④ ・本校生徒のニーズに合った図書館運営を行う。 ・授業利用時間数の増加を目指して、より利用しやすい環境や状況を整える。 ・地域との連携を深め、図書館情報を積極的に内外に発信する。	① ・美化委員会や PTA と連携し、環境整備を計画的に実施できたか。 ② ・全職員が1日を単位として10日以上の年次休暇を取得するなど業務時間の短縮が図れたか。 ・人材を計画的、組織的に活用できたか。 ③ ・不祥事防止会議や研修会が計画的に実施できたか。 ・事故不祥事の発生が防げたか。事案発生の際に適切な対応が取られたか。 ④ ・本校生徒のニーズに合った資料収集や活用、イベント、図書委員会活動などができたか。 ・授業時間数や利用される場面は増加したか。 ・図書館について校内校外それぞれに向けた手段で情報を発信することができたか。	① ・校内整備活動に PTA 以外にも3名の生徒がボランティアとして参加した。 ・防災センター研修や文化祭による起震車体験、DIG 等の研修を通して、災害について身近に捉え、防災に関する意識を高めることができた。また職員1名が岩手県にて防災研修に参加した。 ② ・休めるときには休むということは定着しつつあるが、日単位の年休取得は個人差はある。時間外勤務 の状況の割合は高くはないが、一部職員は超過の状況がある。 ・業務アシスタントや業務サポーターを活用できた。 ③ ・事案の発生を受け、事故・不祥事防止対応の徹底を図った。 ④ ・選書や展示、本の紹介などにおいて、学校生活を鑑みて準備することができた。 ・授業時間数は、利用する教科が増えたため、増加した。 ・授業内の10分間に限ってなどピンポイントに活用する場面があった。 ・Classroom や Libfinder クラウドを用いながら校内への発信に努めた。	① ・今後もボランティアの参加人数が増えるよう募集していく。 ・防災は県の指定は終わるが、これまでの成果を継続したい。 ② ・職員の勤務状況を確実に捉え、勤務時間の短縮と休暇の取得がしやすい職場環境の整備が引き続き必要である。 ・サポート人材は、実践的で計画的な活用を一層進めたい。 ③ ・事故を繰り返さないよう、事例を踏まえた確認を徹底する。 ・カスタマーハラスメントへの対応も必要となる。 ④ ・授業においてより活用してもらえるよう、他校の実践例や利用しやすいツールなどを紹介したい。 ・校外への発信について、現在よりも頻度を増やして更新していきたい。	② ・働き方改革の推進は職員だけでなく生徒を守る上で大切である。 ・業務サポートがあるので、先生方の負担が減らせるとよい。 ③ ・生徒・保護者が多様化していく中で、学校がどう対応していくかが課題となる。	① ・一般生徒の参加があった。今後より多くの参加があるよう、積極的に呼びかけていく。 ・防災支援事業において、一定の成果を収めた。今後も学校防災の取り組みを充実させていく。 ② ・業務アシスタント等の活用を通じ、職員の負担軽減が図れたが、一層の活用を進めたい。 ・休暇等の取得は一定程度進んでいるが、職員の勤務状況把握を通し、休暇が取れない職員を減らしていくことが必要である。 ③ ・事故を発生させないことを継続するとともに、事案の発生の際は、初期段階での速やかな対応に努めたい。 ④ ・本校生徒のニーズに合った資料収集を心掛け、それは達成できたように思うが、そこからの働きかけがまだ少ないように思う。 ・知りたい、伸びたいという生徒の意欲を引き出すようなしかけを、展示や Classroom、動画などを用いて作成し、働きかけていくべきと考える。	① ・ボランティアの呼びかけ時期を早め、積極的な参加を促していく。 ② ・業務アシスタントを計画的な活用の推進が求められている。 ・職員の勤務状況の把握を一層進める。 ③ ・不祥事防止啓発資料等を利用しての研修を進めるとともに、研修が形式化しないように一層工夫する。 ④ ・どうしたら実際に資料を手に取り活用してくれるのか、アウトリーチの部分をしっかり整えていく。学年や他グループなどとも情報交換を行い、適切なタイミングで適切な資料を出せるよう工夫する。